

## 乳癌の原発巣と再発巣における網羅的発現解析に関する研究

### 研究の背景：

乳がんは、主にホルモン受容体と HER2 受容体の有無を病理組織学的に診断することで、手術後に適した薬物療法が決定されます。近年、この受容体が再発巣で変化する事例がいくつか報告されるようになってきております。その原因として、がんの生物学的特性が転移巣で変化している可能性、がんの不均質性、治療による装飾などが挙げられておりますが、その科学的な証明には至っておりません。本研究では、すでに再発されている患者さんの、原発巣と再発巣の手術によって採取した乳がんの組織における遺伝子発現やマイクロ RNA と呼ばれる物質の発現の差異を解析いたします。

差異を見出すことによって、受容体の変化に影響している原因を分子レベルで探索することが可能になると考えられ、さらに、再発乳がんに関する生物学的特性の解明につながることを期待されます。

### 研究の目的：

乳がんの原発巣と再発巣における遺伝子発現およびマイクロ RNA 発現の差異を解析します。

### 研究対象：

当院で 2000 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までに、乳がんの原発巣および再発巣の切除術がなされ、ともに保存されている凍結組織もしくはホルマリン固定パラフィン包埋ブロックが存在する患者さん

### 研究の方法：

原発巣と再発巣の凍結組織もしくはホルマリン固定パラフィン包埋ブロックから切片を薄切し、様々な発現解析を行ない、発現の差を解析する。また、血液検体を用いて、同様に発現に差があるかを解析する。

### 研究対象期間：

研究対象の患者さんがあてはまる期間となりますので、2000年1月1日から2020年12月31日までの期間となります。

### 研究責任者：

国立がん研究センター中央病院 乳腺外科 首藤 昭彦

**個人情報保護に関して：**

本研究において、個人情報は匿名化して用います。また、個人が特定されるような情報は一切公表しません。上記の研究対象に該当する患者さんで、ご自身の検体を本研究に使わないで欲しいというご希望があれば、以下の連絡先までご連絡ください。

**照会先および研究での利用を拒否する場合の連絡先：**

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

国立がん研究センター中央病院 乳腺外科 椎野 翔（研究事務局）

FAX 03-3542-3815/TEL 03-3542-2511

国立がん研究センター中央病院 乳腺外科 首藤 昭彦（研究責任者）

FAX 03-5565-0727/TEL 03-3542-2511